

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	建設材料学特論(9906)		
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教員作成教材・プリント						
担当教員	庭瀬 一仁						
到達目標							
コンクリート材料の微細構造に関する知識を深め、ミクロからマクロまでのつながりについて考察ができるようにする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明でき、さらに応用できる。		コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明できる。		コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明できない。		
評価項目2	コンクリートの耐久性や力学特性について説明でき、さらに応用できる。		コンクリートの耐久性や力学特性について説明できる。		コンクリートの耐久性や力学特性について説明できない。		
評価項目3	コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を英語で説明できる。		コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を説明できる。		コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP3 ◎ 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	社会基盤を整備する建設材料の1つであるコンクリートについて理解を深める事、コンクリートのミクロからマクロまでの知識を深める。 ※実務との関係: この科目は、企業でコンクリート構造物の設計を担当していた教員が、その経験を活かし、世界情勢を踏まえた建設材料のあり方について学生自ら考察し整理して、英語発表できるまでに指導する。						
授業の進め方・方法	授業を進めるにあたっては教官作成の和文・英文のプリントを事前に配布しますので、予習・復習はもちろんのこと、課題に対するレポート作成や演習問題を行いながら、コンクリート工学に対する知識を高めるようにする。コンクリート構造物の耐久性について、コンクリートの微視構造からマクロ的な問題を取り上げ、地域特性も考慮した内容で授業を進める。各自に課題を与えてレポートを提出させる。理系英語の基本的な表現方法について課題を提出するとともに、自らの検討成果を英語で発表する。評価は課題提出60%、小テスト10%、論文発表(英語)30%として行い、100点満点として60点以上を合格とする。なお、課題及び小テストは採点後返却し、論文発表は小論文作成時とPPT資料作成時に適宜指導教員が確認することで達成度を伝達する。						
注意点	授業の最初に目次を作成するので、ノート(A4版)を用意する。講義が修了すればノートが一つの冊子となるように進めていくので、教員作製プリントや演習問題を糊付するなど、各自工夫してノートをとるようにする。ノートの内容は成績評価の対象となりますので課題に対する報告なども記載するようにする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	シラバスによる授業の進め方と技術者倫理	技術者倫理について理解する。			
		2週	セメントの種類と成分	セメントの種類と成分について理解する。			
		3週	コンクリートの種類と特徴	コンクリートの種類と特徴について理解する。			
		4週	コンクリートの耐久性(1)	コンクリートの耐久性について理解する。			
		5週	コンクリートの耐久性(2)	同上			
		6週	コンクリートの配合および強度	コンクリートの配合および強度について理解する。			
		7週	中間試験				
		8週	セメント種類による強度発現についての概要資料作成、英語表現(1)	コンクリートの耐久性に関する内容を小論文にまとめ英語で発表する。			
	2ndQ	9週	PPT資料作成(1)、英語表現(2)	同上			
		10週	PPT資料作成(2)、英語表現(3)	同上			
		11週	日本語発表(1)、英語表現(4)	同上			
		12週	日本語発表(2)、英語表現(5)	同上			
		13週	英語PPT資料作成(1)、英語表現(6)	同上			
		14週	英語PPT資料作成(2)、英語表現(7)	同上			
		15週	英語発表	同上			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	30	0	0	0	60	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	0	10
専門的能力	0	30	0	0	0	60	90

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---